聖隷学園報

発行者
学校法人聖隷学園
聖隷クリストファー大学・大学院
聖隷クリストファー高等学校

〒433-8558
浜松市三方原町3453
電話　053(436)5311
http://www.seirei.ac.jp

最高レベルを目指して

理事長　長谷川　了

一九九〇年に東京海上火災保険株式会社（現 東京海上日動火災保険株式会社）から、「これからの日本にとってもっとも必要とされる人材を養成する大学を作っていただきたい」と三〇億円が寄付されました。これは聖隷の先輩が結核患者を守り、救うために生き抜いた歴史に東京海上火災の方々が尊敬と信頼をし、与えられた寄付であり、私たち聖隷学園のこれからに期待するものでありました。そして一九九二年に一号館を作り聖隷クリストファー看護大学を開設することができました。その時に第一次十カ年計画を作りました。一九九八年に大学院看護学研究科の開設、二〇〇二年に社会福祉学部の開設と二号館の建設、二〇〇四年に大学院社会福祉学研究科、リハビリテーション学部の開設と三号館の建設が実現しました。二〇〇六年度には大学院リハビリテーション科学研究科の開設が確実になり、第一次十カ年計画はすべて実現できました。二〇〇八年には教育研究の最高レベルをめざして大学院博士後期課程の設置を願っています。

リクルート社では昨年、大学のブランドランキングを発表し、本学は名古屋を中心とする東海ブロックで知名度、興味度、志望度の三部門すべてでランキング入りし、社会的評価を得ていることが証明されました。

聖隷クリストファー大学は次の二つの目標をもって経営しています。第一は、静岡県の保健・医療・福祉のレベルの向上に大きく貢献することです。短期大学（現・聖隷クリストファー大学看護短期大学部）が三十五年間、看護師養成をして聖隷三方原病院と聖隷浜松病院に卒業生を送りだし、聖隷二病院の看護は社会から大変高い評価を受けています。そのことによって静岡県西部の看護のレベルを押し上げ、この地域の患者さんは大きな恩恵を受けているように考えます。看護のみならず福祉、リハビリテーションの分野も聖隷クリストファー大学、大学院で高度な専門職者を送り出すことは障害をもつ方々、高齢者、患者さんたちの幸せに貢献することにつながるものと考えています。第二は、アメリカなど世界の先進国と同じレベルの保健・医療・福祉の専門職者養成の教育と研究を行うことです。将来アメリカの大学と共同研究などができるためにも大学院博士後期課程を設置する必要があります。

聖隷クリストファー高等学校は二〇〇三年の九月にキャンパスを全面移転し、校舎・体育館を新たに建設しました。七階建ての校舎、体育館とホール、サッカー場、フットサルコート、野球場、テニスコートなどすべてが十分な施設になりました。二〇〇四年度には、男子バレー部が春高バレーとインターハイの全国大会に出場できました。また、サッカーや野球も県の上位にランクされるようになっています。進学でも現役で名古屋大学や国立大学の医学部に合格するなど実績が上がってきました。二〇〇五年度から就任した菰田校長が中心になって五～十年先に向けた「二十一世紀躍進プラン」を作りこのプランがスタートしました。今は躍進に向かっての助走に入ったところでしょう。進学とスポーツ両面に最高レベルを目指します。

▲①聖隷クリストファー高等学校と②聖隷クリストファー大学および聖隷三方原病院（手前）を始めとする教育・医療・福祉施設の集中する聖隷三方原エリア

聖句

絶えず祈りなさい

（テサロニケの信徒への手紙一　五章十七節）

聖隷クリストファー高等学校

二十一世紀躍進プランの実現に向けて

校長　菰田　勇

本年四月、秋葉保前校長の後を受けて第四代校長に就任しました。職責の重さを痛感しているところです。

本校の歴史は、一九四九(昭和二十四)年の各種学校遠州基督学園及びその後一九五二(昭和二十七)年に開設した聖隷准看護婦養成所以来の歴史を前史にして、一九六六(昭和四十一)年の聖隷学園高等学校衛生看護科の設置へと受け継がれてきました。聖隷における教育事業のはじまりから五十五年の歳月が流れました。二〇〇三年には新校舎が完成し、現在地に移転しました。空にそびえる七階建ての校舎は、本校にとっての新時代の幕開けを象徴しています。

◎「躍進プラン」をつくりました

校舎新築移転を絶好の機会と捉え、プロジェクトチームを組織して、二〇〇四年度を改革元年とする「聖隷クリストファー高等学校二十一世紀躍進プラン」(略称…躍進プラン)を策定しました。五年・十年後の本校の姿をイメージした長期プランであります。これからは、この躍進プランに盛られた趣旨を着実に実行に移すための、「学校経営計画書」(毎年度作成)により本校は運営されていくことになります。「学校経営計画書」には、学年・分掌等の掲げるその年度の重点目標、具体的方策、数値目標が盛り込まれています。

◆目指す目標

「躍進プラン」の目指す目標は「魅力ある学校」づくりです。魅力ある学校とは、視点を変えれば中学生やその保護者にとっての「進学したい学校・進学させたい学校」になります。この目標を具現するために次のような「目指す学校像」を掲げました。

①建学の精神に基づき、人間教育を大切にする学校

②学力が伸び、進路の実現できる学校

③誇りをもって生き生きと学校生活を送り生徒会活動や部活動が活発な学校

本校の伝統である「礼拝」や「労作」等による人間教育を土台にして、文武両面で高い評価を得る学校にしたいと考えています。

◆英数科の設置

「躍進プラン」の中核をなすプランとして、二〇〇六年度に「英数科」の設置を予定しています。英語、数学に力を入れた高度の教育を施し、将来、医療や福祉等の分野で活躍する優秀な人材を育てるための科であります。また、英数科の特色ある授業として「人間探求」の開講も予定しています。この科目は全国的にも極めて高い評価を受けている聖隷三方原病院や聖隷浜松病院および聖隷クリストファー大学の協力を得て展開していくもので、様々な体験・見学や講話等により人間についての思索を深め、高い志を有する人材に育てたいと考えています。

◆数値目標

躍進プランはⅠ期とⅡ期に分けて策定してあり、それぞれの終了年度までの数値目標を設定しています。例えばⅠ期の終了する二〇〇八年度には国公立大学合格者数三十名以上を目標値として設定しています。部活動では同じⅠ期終了年度までに、野球部の甲子園出場を目指しています。教職員の和を大切にし、高い目標・理想を掲げて挑戦し続ける学校でありたいと思っています。

◎今、本校は活気にあふれています

「躍進プラン」による改革二年目である二〇〇五年度を迎え、今、本校は変革の気運と活気に満ちあふれています。「学び」の姿勢を確立する様々な施策、学力向上のための対策等が次々と実行に移されています。

本年三月に卒業した三十七回生も見事な実績を残してくれました。男子バレー部、サッカー部、野球部、少林寺拳法部の大活躍、鈴木孝幸君のアテネパラリンピックでの銀メダル獲得という快挙もありました。進学面では現役で、名古屋大学に二名の合格者を出すことができました。難関私立大学にも多くの合格者を出し、聖隷クリストファー大学には、卒業生の九分の一強に当たる二十六名が合格し、二十五名が進学しました。一人ひとりを大切にし、粘り強く指導した成果であると考えています。(合格実績…左表をご覧ください)

四月六日には、二九七名の新入生を迎えて第四十回の入学式を挙行しました。出席者全員の心に感動を与えてくれた新入生代表中根佑未子さんの言葉を始めとして、素晴らしい入学式だったと思います。本校での三年間の教育を通して学力を伸ばし、人間的にも成長させ、高い志を持った人間として送り出す責務を痛感しています。

本校の教育活動に温かいご支援をお願いします。

▲入学生の言葉を力強く読みあげる新入生代表の生徒。

●主な大学合格実績(2005年度入試)

大学	学部・学科	人数
◎国公立大学		
名古屋大学	農学部	1
名古屋大学	教育学部	1
筑波大学	体育学群	1
電気通信大学	工学部	1
静岡大学	工学部	1
富山大学	工学部	1
広島市立大学	工学部	1
福岡教育大学	教育学部	1
琉球大学	医学部医学科	1
◎私立大学		
早稲田大学	教育学部	1
東京理科大学	理工学部	2
中央大学	法学部	2
明治大学	農学部	2
法政大学	文学部	1
青山学院大学	理工学部	2
南山大学	外国語学部	2
名城大学	法学部など	4
関西大学	工学部	1
関西学院大学	文学部など	3
同志社大学	文学部	2
立命館大学	情報理工学部など	10
杏林大学	医学部医学科	1
金沢医科大学	医学部医学科	1
近畿大学	医学部医学科	1
聖隷クリストファー大学	看護学部など	26

聖隷クリストファー大学

◎『地域支援研究所』の開設

聖隷クリストファー大学の地域貢献

学長 深瀬 須加子

わが国においては、社会が求める人材の多様化、少子化による学生数の減少などによる教育環境の変化から、またグローバル化の進展による教育改革の必要性から、各大学において数年来、改革がさかんに行われております。本学では聖隷クリストファー大学学報、聖隷学園報によりこれまでもご報告してきましたとおり、昨年度開設しましたリハビリテーション学部に修士課程を開設する準備を進めております。文部科学省への事前相談の結果、届出により本学大学院にリハビリテーション科学研究科を設置することができることになり、二〇〇六年四月には看護、社会福祉、リハビリテーションの三学部にそれぞれ修士課程が整うことになりました。本学の次の目標は博士後期課程の設置であり、実現すれば保健・医療・福祉の、文字どおり総合大学としての体制が整うことになります。このような本学に今、求められているのは、教育研究の質の充実と大学としての国際的競争力をつけ、第三者評価に耐えうる大学となることであります。数年後の博士後期課程開設、さらにその後の本学の教育構想とそれを実現するためのグランドデザインを本年度中にかたちにしたいと、グランドデザイン策定委員会を発足させて動き出しているところです。

そのグランドデザインに盛り込み推進すべき事項のひとつに、地域社会への貢献という、近年、大学が問われている課題があります。本来、本学が社会的要請に基づいて看護職、社会福祉・介護職、そして理学療法・作業療法の療法士および言語聴覚士というリハビリテーションの専門職を、大学、さらには大学院教育により養成していることそのものが、人々の健康生活への大きな社会貢献と言えますが、そのことにとどまらず、教育研究の成果を地域社会に還元していきたいと願っています。そのために本学では従来から生涯学習の一環として、適時なテーマによる公開講座や「看護の日」、「福祉の日」の記念行事として講演会を提供してまいりました。そのほか、自治体や団体、学校、医療・福祉関係の施設等からの依頼による講義、研修、セミナー、研究指導、相談業務など、本学教員が主に専門職者を対象として多方面で活動を行っております。学外との共同研究も年々活発になってきているところです。

これら本学の、地域における、地域のための活動、また地域との連携による研究活動を、より組織的に、系統立てて発展させる必要性を考え、本年四月に「地域支援研究所」を立ち上げました。研究所の活動の基本は教育と研究ですが、その活動の精神は、「聖隷事業」の歴史を踏まえた、聖隷ならではの実践活動による貢献でなければと考えております。構想としましては、大きく次の三つの機能が挙げられます。

Ⅰ 教育、研修、学修支援の拠点

①自治体、団体、学校、施設等における研修会の企画相談、実施支援

②専門職を対象とした卒後教育の実施

③一般市民を対象とした公開講座等の生涯学習の場の提供

Ⅱ 健康生活への支援と相談業務

高齢者・在宅療養者支援、育児支援、その他健康増進に関する相談と支援

Ⅲ 学術的な実践と教育研究の開発拠点

調査・研究の受託および共同研究

調査・研究により得られた成果の具体的活用支援

学内の地域貢献推進会議は、研究所の立ち上げにあたり、まず、看護・介護、リハビリテーション、社会福祉、健康科学、保健・福祉の政策科学の五分野について、本学教員の得意とするテーマと活動状況を本学ホームページに公開しました。すでに複数の自治体から、ケアマネージャー現任者研修会(浜松市)、転倒予防教室(細江町)など、専門職を対象とした研修実施の相談を受け、目下、企画を練っているところです。

市民向けの公開講座としましては、東海地区にある大学として、今年度は「震災」をテーマに取り上げ、大規模地震が発生した際の、高齢者福祉や心身の健康面からのサポートについて学外および学内の講師による連続講座を九月三日から開始します。また、開設予定のリハビリテーション科学研究科も含め、本学大学院担当教員による専門職向けの講座を今夏と秋に開催する準備を進めております。

これら研究所を拠点とする実践は、本学教員自身の研究、本学学生の学習の場ともなります。具体的構想は今後になりますが、本学に附属のクリニックをとの考えもあります。これが実現しますと、リハビリテーションに関する治療的対応も視野に入れた活動が可能になりましょう。研究所の三つの機能は、相互に関連をもって進められるものであります。また看護、社会福祉、リハビリテーションの三学部が協同して活動を行うことにより、より本学の特色を発揮できるものとなります。開設したばかりの研究所は、まだ建物があるわけでもなく、研究員、職員も兼任ではありますが、まず一から開始し、順次進めてゆく計画です。

聖書のことば

「絶えず祈りなさい」

聖隷学園宗教主任
聖隷クリストファー大学 教授 佐柳 文男

聖書は「絶えず祈りなさい」と命じる。どういうことであろうか。

祈りが何になるのだ。飢えている人のために祈っても、その人の飢えが癒されることはないではないか。祈りによって病気が治るのなら、病気はとっくの昔に地上からなくなっているはずだ。

祈りが茶化され、嘲笑されることは多い。たしかに茶化されても仕方のないような荒唐無稽な祈りが横行している。気休めやごまかしでしかない祈りが多い。

しかし、例えば飢えや災害で苦しんでいる人、愛する者を失って悲しんでいる人のために祈ることは無意味なことだろうか。私たちの祈りによって、肉体の苦しみが軽減したり癒されたりすることはないだろう。しかし肉体の苦しみが苦しみのすべてであろうか。

苦しんでいる人にとって、最大の苦しみは、人々に忘れられ、無視され、誰からも思いもかけられず、目もかけられないこと、孤独のうちに放置されていることではないだろうか。誰からも愛も向けられないことではないか。

たとえ肉体に、あるいは心に苦しみがあっても、自分が誰かに覚えられている、誰かの祈りのうちに覚えられているとき、人は苦しみに耐え、立ち直ることが出来るのではないか。祈りはエンパワメントの業である。私たちは絶えず隣人を、とくに苦しみのうちにある人を心に覚え、彼らに思いを向け、支援をしなければならない。

◎二〇〇六年四月大学院リハビリテーション科学研究科開設予定

大学院リハビリテーション科学研究科開設に向けて

リハビリテーション科学研究科長（予定者）
宮前　珠子

二〇〇六年四月、本学大学院にリハビリテーション科学研究科修士課程が開設されることになりました。学部や大学院の設置は、六月に申請し九月に認可が下りるのが一般的ですが、規制緩和の一環として大学院についても来年度設置のものから「届け出」で開設が可能となり、本学リハビリテーション科学研究科に初めてその制度が適用されたものです。

では、何故大学院が必要なのか、何故リハビリテーション科学研究科をつくるのかということについてはじめに述べたいと思います。

聖隷グループは隣人愛の精神に基づき、これまで利用者の方々に、心のこもった出来るだけ質の高いサービスを提供するという精神で活動を行ってきましたが、大学院の設置もこの延長線上に位置するものです。学部教育が現行の基本的知識、技術の伝達であるのに対し、大学院ではより高度な進んだ知識、技術、理論、研究法を習得し、日々の仕事の中から生まれた疑問をテーマとして研究し、新しい治療理論、方法、考え方をその領域にもたらすものです。

保健・医療の進歩、生活環境の改善などにより、リハビリテーションの対象者も次第に変化、多様化、あるいは重度化し、かつて学校で得た知識・技術や、卒後に研修会・講習会で得る知識のみでは仕事上充分とは言えません。エビデンス・ベイスト・メディシン（科学的根拠に基づいた医療）が求められる現在、リハビリテーションにおいてもエビデンス（根拠）を示し、人々から納得して貰えるセラピーを行うことが必要であり、そのためにはセラピーの知識、技術、効果を科学的に解明し、利用者に対して論理的に説明できることが必要です。文献や本をしっかり読み、教員や仲間の院生と討論し、フィールドワーク、実験、調査を行い、深く考える習慣を身につけ、論文を書くという一連の作業をするために、大学院という環境、システムに勝るものはありません。

さて、リハビリテーション科学研究科の研究分野は、理学療法科学系、作業療法科学系、言語聴覚療法科学系の3分野で、理学療法科学系には「発達・神経障害理学療法学」「内部障害理学療法学」、作業療法科学系には「作業科学」「身体障害作業療法開発学」「地域作業療法開発学」、言語聴覚療法科学系には「言語・嚥下障害学」と、合計六つの研究領域をおきます。定員は一学年計十名で修業年限は二年ですが、有職者については三年で修了する長期在学制度を設け、授業を土曜、夜間、休業期間に集中して行うなどの便宜を図り、仕事を持ったままで勉学に取り組めるようにします。

入学希望者は予め上記のうちいずれかの研究領域を志望し、担当教員に連絡をとり、研究テーマなどについて相談した上で入学試験を受けます。入学試験は秋季（十月）と春季（一月）の二回実施します。

カリキュラムは大きく分けて、共通基礎科目と領域別専門科目からなります。共通基礎科目には、ヘルスプロモーション健康政策、保健医療経済政策、Evidence Based Medicine、実験的研究法、社会調査、人体構造・機能学、心理学、キリスト教倫理、保健医療倫理学、生活環境工学、現代リハビリテーション学、内部障害・生活環境・嚥下障害リハビリテーション学、教育方法学の十五科目が含まれ、これらは、保健医療のあり方を国策レベルから考える科目、研究法を会得する科目、人間理解を深める科目、医療者のあるべき姿を考える科目、リハビリテーションの新しい知見を得る科目、教育方法について学ぶ科目に分けて考えることが出来ます。これらはいずれも三十時間二単位で、学生はこの中から六科目十二単位以上を選択します。

領域別専門科目は、それぞれ志望した研究領域の「特論」、「特論演習」、「特別研究」三科目十四単位と、その他の研究領域から四単位以上を選択します。即ち、修士課程修了のために学生は、共通基礎科目と専門科目を合わせて三十単位を履修し、修士論文を完成させることが条件になります。

リハビリテーション関係の大学院は静岡県で初めてであり、中部地区では金沢大学、名古屋大学に次いで三番目になります。教員一同、そして入学するであろう院生と力を合わせて、また先行する看護学研究科、社会福祉学研究科の御協力も得て、しっかりとこの研究科を育てていきたいと思います。

■リハビリテーション科学研究科　教育課程

			授業科目の名称	配当年次	単位又は時間数 必修	選択	自由
			（リハビリテーション科学研究科　リハビリテーション科学専攻）				
授業科目の概要	共通基礎科目	関連科目	キリスト教倫理特論	1		2	
			保健医療倫理学特論	1		2	
			ヘルスプロモーション健康政策特論	1		2	
			保健医療経済政策特論	1		2	
			Evidence　Based　Medicine特論	1		2	
			実験的研究法	1		2	
			社会調査特論	1		2	
			生活環境工学特論	1		2	
			現代リハビリテーション学特論	1		2	
			人体構造・機能学特論	1		2	
			心理学特論	1		2	
		共通専門科目	教育方法学特論	1		2	
			内部障害リハビリテーション学	1		2	
			生活環境リハビリテーション学	1		2	
			嚥下障害リハビリテーション学	1		2	
	領域別専門科目	理学療法科学系　発達・神経障害理学療法学	発達・神経障害理学療法学特論	1		4	
			発達・神経障害理学療法学特論演習	1		2	
			発達・神経障害理学療法学特別研究	2		8	
		理学療法科学系　内部障害理学療法学	内部障害理学療法学特論	1		4	
			内部障害理学療法学特論演習	1		2	
			内部障害理学療法学特別研究	2		8	
		作業療法科学系　作業科学	作業科学特論	1		4	
			作業科学特論演習	1		2	
			作業科学特別研究	2		8	
		作業療法科学系　身体障害作業療法開発学	身体障害作業療法開発学特論	1		4	
			身体障害作業療法開発学特論演習	1		2	
			身体障害作業療法開発学特別研究	2		8	
		作業療法科学系　地域作業療法開発学	地域作業療法開発学特論	1		4	
			地域作業療法開発学特論演習	1		2	
			地域作業療法開発学特別研究	2		8	
		言語聴覚療法科学系　言語・嚥下障害学	言語・嚥下障害学特論	1		4	
			言語・嚥下障害学特論演習	1		2	
			言語・嚥下障害学特別研究	2		8	

〈履修方法〉領域別専門科目のうち選択した研究領域3科目14単位を必修、他の研究領域の中から4単位以上を選択必修とし、共通基礎科目（関連科目、共通専門科目）から6科目12単位以上を選択し、履修するものとする。

〈修了要件〉2年以上在籍して30単位以上を修得し、必要な研究指導を受けた上、修士論文審査及び最終試験に合格した者に課程修了を与える。

◎大学院看護学研究科二〇〇五年度専門看護師（CNS）コース設置

大学院教育の充実を目指して

がん看護CNS教育の意義と内容

看護学部教授　小島　操子

近年、少子高齢化が急速に進展し、生活の質が向上する一方で、医療の高度・複雑化や専門分化、また疾病構造の変化などが進み、人々のヘルス・ニーズが高度・複雑・多様化すると共に権利の主張が増大するにつれて、看護職への期待が変化し、スペシャリストの要請が高まってきました。

このような状況の中で、一九九六年に専門看護師（certified nurse specialist・CNSと略す）制度がスタートしました。CNSとは、ある特定の専門看護分野において卓越した看護実践能力を有することが認められた者です。CNSの認定は日本看護協会が行っていますが、CNS養成カリキュラムの審査は、一九九九年より日本看護系大学協議会が行っています。CNS認定審査の受験者は、看護系大学院修士課程修了者で、実務経験が通算五年以上、そのうち三年以上は専門看護分野の経験で、このうち一年は修士課程修了後の実務経験となっています。CNSに期待される役割は、卓越した看護実践、コンサルテーション（相談）、コーディネーション（調整）、倫理調整、教育、研究です。

CNS教育の目的は、これらの役割が果せるCNS候補生を育成し、患者・家族にとって質の高い、満足や幸せが実感できる看護の提供や看護専門職の社会的価値の向上、看護学の進展に寄与することといえます。CNS教育は、実践看護学の追究を通して大学院教育を充実・発展させると共に、看護・医療の質を高めるでしょう。また、看護実践者にとっては、生涯学習の一貫となり、看護へのコミットメント（自己投入・専心）を高めるでしょう。看護の学部学生にとっては、看護実践者への未来展望が開け、期待や自覚が高まり、学習意欲が向上するといわれています。

この四月に本学大学院にがん看護学のCNSコースが設置されました。質の高いCNS教育を行うには、臨床側の理解と協力が不可欠です。大学に隣接する聖隷三方原病院には、日本で最初に誕生した伝統あるホスピスがあり、現在、がん病棟の開設が進められています。看護部をはじめ、病院側のがん看護CNS教育に対する関心、協力は非常に大きくまさに機が熟したスタートとなって、大変うれしく思います。

がん看護CNS教育カリキュラムは、日本看護系大学協議会のがん看護カリキュラム審査基準に照らしながらユニークに進めたいと考えています。カリキュラムの構成は、がん看護に対する病態生理学、がん看護に関する理論や看護援助論を含む専攻分野共通科目八単位、および広範ながん看護分野の中で、疼痛看護、緩和ケア、化学療法看護などの専門領域（一領域以上）に焦点を絞って深める専攻分野専門科目四単位、そしてCNSに期待される役割の学習と複雑な実践の経験を含む実習科目六単位から成り、これら計十八単位の科目が必須です。さらにCNS教育の共通科目として、看護理論、看護研究、看護倫理など指定された七科目の中から八単位以上が選択必須となっています。

CNS教育は、教養科目や関連諸科学の広範な基礎的知識を土台にして、高度な、重点的な専門科目を主体的、探求的に学習することと、複雑な事象を分析・総合・評価（意思決定）することを含む卓越した実践を目指したクリニカル・トレーニングが非常に重要です。これらの学習・経験は、専門家として、またチェンジ・エイジェント（変化を促進する者）としての意識を高め、看護・医療の変革や更なる質の向上に貢献するでしょう。また自己の成長や感性の豊かさをもたらすと共に看護へのコミットメントを強めるでしょう。

本学でのCNS教育は、スタートしたばかりです。多くの方々の御協力・御支援を得て、静岡県周辺で唯一のCNS教育を実り多いものにしたいと念願しています。卒業生や近隣施設などからのたくさんの応募を期待しています。

大学院社会福祉学研究科のこれから

社会福祉学研究科長　畠山　龍郎

社会福祉学研究科は県下で唯一の修士課程の大学院で開設二年目になりました。

日本社会福祉学校連盟によれば、社会福祉系大学で本学のような修士課程の大学院数は七十七校、専門職大学院は一校、博士課程では四十一校とのことです。本学の研究科は後発の大学院かもしれません。

しかしながら、聖隷福祉集団がわが国において最大のグループであり、しかも先駆的・開拓的役割を担ってきており、福祉教育の領域でもヘルパー学園の開設という伝統を思い起こせば、本学社会福祉学部と社会福祉学研究科はわが国においてきわめてユニークかつ先導的な役割を期待されていると考えられます。

日本学術会議のヒューマンセキュリティ特別委員会の「福祉研連」は、ソーシャルワークを展開できる社会システムづくりへの提案について検討しております。社会福祉の制度やポリシーに強く依存してきたわが国の社会福祉の研究が、ソーシャルワークの研究も本来重視すべき研究として認識するようになってきたわけです。

本学研究科は「ソーシャルワーク研究」を中核とした教育課程を整え、各種独占の専門職の養成のみでなく業務独占のより高度で他専門職者と協働できる、いわば上級ソーシャルワーカーや専門職教育者の養成に対して先駆的役割を担っていく準備が整えられております。また、一方的な講義だけではなく事例研究・現場調整・実習のより高度な実践的な教育課程についても整えられております。

各専門職団体の社会的認知が得られるような独自性のある研究科を目指しております。現在の在学生は全員福祉領域の実務者ですが、次年度からは、本学社会福祉学部の卒業生の受け入れ準備が整っており、社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士の領域において共通の共有できるジェネリックな研究・教育を特色としております。

聖隷クリストファー大学各学部の近況

看護学部

学部長　中野　照代

看護学部は今年十四回目の新入生を迎え、二年次編入生三年次編入生を合わせて総勢五二六名という大所帯になりました。教員も短期大学部から五名が看護学部に合流し、五十一名の教育体制を組んでいます。入学式翌日から始まった新入生セミナーには一〇〇名を越す上級生が参加協力し、楽しくかつ効果的なガイダンスとなりました。四年次生は早速臨地実習に入り、きりっとしたユニフォーム姿で病院と大学を行き交っています。

ここ二～三年、専門的な判断力と、対人関係も含め確かな技術をもった看護職に対する社会的な要請の高まりから、看護技術教育のあり方が問われています。個人情報保護法、電子カルテの導入など看護の現場に大きな動きがあり、実習のあり方も新たな課題に直面しています。隣人愛を基本とする建学の精神は揺るがないところでありますが、専門職と呼ばれるにふさわしい技術の基礎と高い倫理性を身につけた学生をどのように育てていくのか、一般教養、専門領域を問わずそれぞれの立場で真剣に取り組んでいるところです。

国際交流の面では、今年三月に学生二十名が短期大学部学生八名とともに重慶の第三軍医大学、西南医院そして北京を訪問しました。本場の辛い四川料理、独特のにおいがどうも合わなかったという参加者もいましたが、大学の研修だからこそ得られた数々の貴重な体験をし、中国の人々の生活や文化に触れることができたと思います。また、今年の夏はネブラスカのウエスリアン大学看護学部を拠点にアメリカ研修を予定しています。今後双方向での交流が進み、国際的な視野で活躍する学生が育っていくこと、研究交流も盛んになることを願っています。

社会福祉学部

学部長　佐々木敏明

社会福祉学部は、開設四年目を迎えます。三年間、学生と教員が一緒に築きあげてきた跳躍台から、この春には、一足先に編入生九名が飛び立ち、後輩の進む道を切り開いてくれました。

今、四年生も、後に続けと卒業研究、国家試験対策、就職活動など、真剣に取り組んでいます。

学部の運営も、このような状況に対応するために、四月から、新たに学部長補佐（渡辺泰宏）、社会福祉専攻主任（山本誠）、介護福祉専攻主任（矢部弘子）を置き、教員が役割分担をしながら、きめ細かく教育や学生生活をサポートできるよう努力しています。

ところで、一年生から四年生まで四三〇名の学生が揃い、教員も教育・実習に追われ、フル回転していますが、完成年次は、さらなる発展を目指して、時代のニーズに見合った社会福祉学部の将来像を積極的に提起していくことが求められています。

聖隷の培ってきた歴史や環境、看護学部、リハビリテーション学部があるという本学の特色、強みを生かした社会福祉学部の将来像をグランドデザインの中に盛り込んでいくためにも、教員一人ひとりが発言することが必要です。

学内、学外の声に耳を傾け、これまでの教育内容を点検評価し、カリキュラムの改革、学生募集のあり方の検討など具体的な作業とあわせて、二十一世紀の社会福祉を見据え、社会福祉学部の将来像を語り合いたいと考えています。

リハビリテーション学部

学部長　小川　恵子

新しい年度を迎え、一年生が入学してきました。今年は三専攻合わせて九十四名という人数で、昨年よりも九名多く入学しました。志願者数も前年比二八.五八％と上がっています。男女数は昨年、男性三十八名、女性四十七名でしたが、今年は男性三十八名、女性五十六名と増えた九名は女性でした。他の学校との比較はわかりませんが、私が以前勤務していた大学の作業療法学部と比較して言えば、本学は男性が多い方です。

教員も学年進行に合わせて赴任してきていますが、昨年の十六名に対して今年は二十四名になりました。はつらつとした新入生と意気に燃えた教員に接して喜んでいます。

昨年に引き続き今年も新入生セミナーで愛知県民の森に一泊で行ってきました。先輩になった新二年生が十五名参加し新入生をリードしてくれたので、助かりました。一日目は森を散策しながらオリエンテーリングしたり、懇親会をしたり、二日目は専攻別にセミナーをし、最後にカレーライスの飯盒炊飯をしました。桜並木のドライブはとても素晴らしく、思い出に残ったことでしょう。専攻を超えての交わりも良かったと思います。

看護短期大学部

学部長　塚田トキヱ

今年度は看護学科最後の学生一〇七名が在籍するだけになり身も心も引き締まる思いです。教員も年次をおって他学部に移籍し専攻科の教員を含めて十五名になりました。ただし、三年生にとっては短期大学教育の三年間の知識と技術を統合する最も重要な実習や研究などが残っています。そのため他学部に移籍された先生方も実習指導や研究指導、また学生のアドバイザーとして短期大学部の教育活動に力を尽くしてくれています。

専攻科助産学特別専攻は今年も新入生十七名を迎え専門科目の多い授業が始まっています。助産学専攻のカリキュラム進度は講義と実習とを交互に組み入れた形態で行なっていきます。実習は二ヶ所の聖隷病院が主で、学生は両病院に分かれ一年間同じ施設で同じ教員による継続した指導を受けます。

本学短期大学部の教育の特徴は多くありますが、特に学生を中心に考えて物事を判断することです。教員は学生の一人一人の情報をよく把握していて、その学生にあった支援を密に関わりながら行なっています。看護も教育も基本的姿勢は同じだと思います。「患者中心の看護の実践」を教育の場で学生に関わる姿勢を通して教えていると思います。師の背中を見て育つとよく言われますが正にその通りで、卒業生を受けてくださった施設からはよい看護をしているという大変嬉しい言葉をいただいています。また、短期大学部の長い歴史は多くの卒業生を送り出しており、看護や社会福祉の世界でトップリーダーとして活躍している人も少なくありません。短期大学部が今まで行ってきた教育のよかった点を看護学部にどのようにして受け継いでいただくかを思案しながらも、更に大きく飛躍していく大学の将来に強く期待してやみません。

聖隷歴史資料館の近況

法人事務局長 堀口 路加

二〇〇五年五月から「遠州栄光教会特別展」を開催しています。主題は「見えるものは見えないものから」。このテーマは新約聖書ヘブライ人への手紙十一章三節に由来するもので、「丁度、見える樹が見えない根っこの部分で支えられているように、見える建物が見えない土台に支えられているように、教会も同じ。聖隷も同じです。」と遠州栄光教会の森田恭一郎牧師は語ります。さらに「教会の礼拝や働きは、見えない神さまの恵みとそれをもたらす見えない聖霊の導きが見える形になったものです。聖隷の隣人愛の目に見える実践は、神の愛を受けとめる見えない信仰と祈りが応答実践として形となって生み出され、受け継がれてきたものです。見えないものに目を注ぐ視点あってこそ、私たちは自分自身の存在や働きの意義を明らかにできます。展示が目指したことはここにあります。」と続けます。遠州栄光教会の側にとってみると、歴史を振り返るだけではなく、これからに向けた自らの立脚点を確認し、聖隷を念頭においた伝道の使命を自覚しなおす機会となったはずです。事業を展開している側にとっては、聖隷と遠州栄光教会の関係がいかなるものか、キリスト教精神とか聖隷精神という言葉は時々耳にするけれど、結核療養所時代の聖隷を深いところで支えていた信仰、理念はどのようなものだったのかなどについて真正面から答えてくれる展示になっているものと思います。

時代と社会からの期待を背景に、聖隷の働きは今後もさらに拡大を続けていきます。しかし規模や量的な拡大と共に、内面からの輝きを保ち続けられるかどうかは、真の求心的核を何に置くかにかかっています。遠州栄光教会の伝道の使命が聖隷の働きを生み出してきた信仰を受け継ぎ、聖隷の働きを執り成し仕えていくことにあること、そして聖隷のシンボルマークの中心に描かれている十字架は単にキリスト教精神を示すだけのものでなく、伝道の使命を遠州栄光教会が中心となって担っていくことを示すのだという自覚は、教会にとっても聖隷にとってもこれからを考える大きな鍵になります。

▲歴史資料館内に展示されている遠州栄光教会の基本姿勢が記されている展示パネル

[2004年度満足度調査]

●満足度調査について

学園では、1994年度から毎年、学生・生徒の考え方を把握し、学校経営や学校運営に積極的に反映していくことを目的として、大学、高等学校の卒業学年の全学生・生徒を対象に、満足度調査を実施しています。また、2004年度からは大学の在学生に対しても実施しております。この調査は学校法人が直接実施することにより、学生・生徒が教員を意識せずに回答できることが特徴で、率直な意見が出されています。調査方法は、90～100問の設問をマークシートにより回答し、その他自由記述による設問も設けています。マークシートによる回答は、「大変満足している」「やや満足している」「どちらでもない」「あまり満足していない」「全く満足していない」の5段階です。

●調査結果の概要

調査項目は、大学では、①教育目的・目標、②進路（就職・進学）、③授業全般、④教員、⑤事務職員、⑥校舎、⑦図書館、⑧体育施設、⑨厚生施設、⑩課外活動、⑪下宿、⑫交友関係、⑬その他の学生生活の13項目にわたります。（高等学校では①～⑨は大学と同様の分類の他、⑩行事、⑪部活動、⑫学校生活、⑬保健室の13項目に分類）

看護学部における満足度の高い項目は、順に②進路（就職・進学）、⑤事務職員、⑥校舎、④教員、②進路（就職・進学）、満足度の低い項目は、⑨厚生施設、⑩課外活動、⑧体育施設です。

看護短期大学部における満足度の高い項目は、②進路（就職・進学）、④教員、⑤事務職員、⑪下宿、⑫交友関係、満足度の低い項目は、⑩課外活動、⑨厚生施設、⑥校舎、⑧体育施設です。

社会福祉学部における満足度の高い項目は、⑪下宿、③授業全般、⑫交友関係、④教員、⑥校舎、満足度の低い項目は、⑩課外活動、⑧体育施設、⑨厚生施設です。

高等学校における満足度の高い項目は、⑤事務職員、⑦図書館、⑪部活動、⑩行事、満足度の低い項目は、⑧体育施設、⑬保健室、③授業全般、⑥校舎です。

●学校経営・学校運営への反映

「満足度」は主観的なものですから、個々により満足しているかどうかは違いがありますが、学園では、学生・生徒が個々に感じる満足・不満足の率直な意見を大切にしたいと考えています。理事会や教職員が各々の立場で調査結果を分析し、その重要度や緊急性を判断して、教育内容の充実、施設設備の充実等に反映しています。

大学において、満足度の低い厚生施設の面で、学生食堂の混雑緩和、待ち時間の短縮を図るため、この四月から昼休みの時間を55分から65分に延長し、学生が入れ替わって利用できるようにしました。また、混雑時でも座ることができるよう補助いすを増やし、天気のよい日には屋外で昼食が取れるよう、大学6号館前にベンチ付テーブルを5セット設置しました。

高等学校においては、コースごとに結果の傾向が異なり、特に情報コース、長期留学コースの満足度が非常に低くなっていることを受けて、担当教員が原因について調査・分析を行い、対応策を検討中です。各コース共通で満足度の低い校舎の利用については、放課後自習のための教室開放を17時30分から19時に延長しました。また、コンピューター教室や体育施設の利用については、アンケート調査等により生徒が望む利用内容を把握し、対応を図る考えです。

今後もこの調査結果を教職員ひとりひとりが真摯に受け止め、学生・生徒の満足度を高められるよう改善に努めたいと考えています。

最後に、ご協力をいただいた学生・生徒の皆さんに感謝申し上げます。

◆2004年度決算および2005年度予算について

（単位：千円）

科目等		2004年度消費収支決算書				2005年度消費収支予算書				2007年度消費収支見込			
		法人	大学	高等学校	合計	法人	大学	高等学校	合計	法人	大学	高等学校	合計
消費収入の部	学生生徒等納付金	0	1,684,587	330,650	2,015,237	0	1,834,562	369,158	2,203,720	0	2,066,349	399,261	2,465,610
	手数料	0	68,048	15,718	83,767	0	65,780	15,080	80,860	0	58,400	15,000	73,400
	寄付金	1,124	7,637	2,109	10,870	0	6,722	3,800	10,522	0	0	0	0
	補助金	0	174,663	286,015	460,678	0	218,751	237,952	456,703	0	393,334	258,600	651,934
	資産運用収入	32	6,660	2,057	8,749	0	5,163	1,272	6,435	0	11,000	5,000	16,000
	雑収入	134	64,440	40,034	104,608	0	724	600	1,324	0	0	0	0
	帰属収入合計	1,290	2,006,036	676,583	2,683,909	0	2,131,702	627,862	2,759,564	0	2,529,083	667,861	3,206,944
	基本金組入額	501,442	△959,337	△53,962	△511,857	△12,200	△38,674	△85,915	△136,789	0	△49,260	△97,290	△146,550
	消費収入の部合計	502,723	1,046,699	622,621	2,172,052	△12,200	2,093,028	541,947	2,622,775	0	2,479,823	580,571	3,060,394
消費支出の部	人件費	53,723	1,362,280	420,448	1,836,451	58,472	1,479,292	402,423	1,940,187	61,797	1,459,998	401,558	1,923,353
	教育研究経費	0	537,258	255,000	792,258	0	543,224	241,574	784,798	0	597,151	222,378	819,529
	管理経費	32,533	114,887	21,096	168,517	39,323	117,281	29,594	186,198	40,000	150,327	27,298	217,625
	借入金利息	0	13,926	44,458	58,384	9,618	13,224	34,700	57,542	2,659	12,085	37,709	52,453
	資産処分差額	0	1,187	25	1,212	0	0	0	0	0	0	0	0
	予備費	0	0	0	0	0	7,900	2,400	10,300	0	0	0	0
	消費支出の部合計	86,256	2,029,538	741,028	2,856,822	107,413	2,160,921	710,691	2,979,025	104,456	2,219,561	688,943	3,012,960
当年度帰属収支差額			△23,503	△64,444	△172,913		△29,219	△82,829	△219,461		309,522	△11,082	193,984
当年度消費収支差額			△982,839	△118,407	△684,770		△67,893	△168,744	△356,250		260,262	△108,372	47,434
前年度繰越消費収支差額					△2,782,885				△3,467,655				△3,823,905
翌年度繰越消費収支差額					△3,467,655				△3,823,905				△3,776,471

財務比率	大学	高等学校	合計		大学	高等学校	合計		大学	高等学校	合計
人件費比率(対 帰属収入)	67.9%	62.1%	68.4%		69.4%	64.1%	70.3%		57.7%	59.2%	60.0%
教育研究経費比率(対 帰属収入)	26.8%	37.7%	29.5%		25.5%	38.5%	28.4%		23.6%	32.8%	25.6%
管理経理比率(対 帰属収入)	5.7%	3.1%	6.3%		5.5%	4.7%	6.7%		5.9%	4.0%	6.8%
消費支出比率(対 帰属収入)	101.2%	109.5%	106.4%		101.4%	113.2%	108.0%		87.8%	101.6%	94.0%

■2004年度決算の概要

◆大学に2つの未完成学部と未完成の研究科があります。

2004年度は、大学では依然として未完成学部が2学部ある状態が続いています。2002年度に設置した社会福祉学部（入学定員95名、3年次編入10名）は3年目、リハビリテーション学部（入学定員80名）および大学院社会福祉学研究科（入学定員10名）は2004年度に設置し、まだ1年目の未完成状態です。さらに看護短期大学部（入学定員100名）は学生募集停止により補助金の交付対象から外れ、その定員の一部を振替えた看護学部の定員増（100→140名）は1年目です。

◆高校新校舎の減価償却費等の負担が増大しています。

高等学校は、完成した新校舎に2003年9月に全面移転しました。新校舎の取得に伴い、減価償却額、借入金利息が帰属収入のそれぞれ17%、6.6%を占め、消費支出の負担が増大しています。また、教育研究経費のうち奨学費および外部委託講義の報酬委託手数料が帰属収入のそれぞれ7.2%、3.6%を占めており、今後教育効果の向上を図る中での見直しが課題となります。

◆帰属収支は想定の範囲内で2年連続のマイナスになりました。

こうした中で、2004年度の帰属収支は前年度に続いてマイナスとなりました。これは想定の範囲内です。部門別に見ると、大学単独ではプラスですが、短期大学部との合計額では△2350万円となります。高等学校とさらに法人部門を加えると法人全体では△1億7291万円となっています。

◆完成年度に向かうにつれて収支はV字回復します。

今後の計画では、短期大学部は2006年度に専攻科のみ残りますが、2007年度には大学に完全移行する予定です。大学はすべての学部で入学定員を確保しており、今後すべての学部が完成年度を迎える2007年度に向かって納付金は年々増加し、未完成だった学部の補助金も交付されるため収支は急速に回復し、安定した財務状況となる見通しです。また、高等学校では2005年度は入学者数が4年ぶりに定員を上回り、2006年度の英数科設置計画等、今後10年間のグランドデザインとして策定した「21世紀躍進プラン」を展開することによって、進学実績を十分に上げる魅力ある学校づくりを目指す考えです。

◆大学院博士課程の設置を見通した安定的な財務構造の確立が課題となります。

今後の課題として、高等学校の収支バランスを改善する上では、支出の見直しを図るとともに、新校舎取得に伴う負担を軽減する方策を講じ、収支バランスの改善を図る考えです。また、大学においては2008年度に大学院博士後期課程を設置する計画です。それに必要な資金を確保する一方で、同時に教育研究の活力も失ってはならず、そのバランスを如何に取るかが今後の大きな課題と考えています。

2004年度決算の事業別集計

（単位：千円）

		大学	高等学校	合計
教育研究経費	研究費	56,487	0	56,487
	教育研究援助費	51,810	32,470	84,280
	情報処理教育研究費	22,837	13,037	35,874
	学術情報資料充実費	18,162	718	18,880
	キリスト教教育	630	212	842
	国際交流関係費	3,420	1,994	5,414
	教育研究事務費	16,929	4,135	21,064
	小計	170,275	52,566	222,841
学生諸費	奨学援助費	1,000	48,764	49,764
	学生生活援助費	1,732	375	2,107
	就職相談費	5,030	0	5,030
	学生健康管理費	2,620	295	2,915
	学生福利厚生設備	3,301	93	3,394
	学生事務費	713	0	713
	小計	14,396	49,527	63,923
入試募集	入学試験費用	2,339	824	3,163
	学生生徒募集広報費	64,853	8,736	73,589
	事務管理費	1,729	0	1,729
	小計	68,921	9,560	78,481
施設設備費	修繕設備充実費	18,403	3,171	21,574
	施設設備維持管理費	34,571	11,910	46,481
	光熱水費	32,372	22,015	54,387
	通信費	2,367	675	3,042
	小計	87,713	37,771	125,484
一般管理費	経営事務費	58,564	9,174	67,738
	自己点検評価・満足度調査費	24	0	24
	教職員健康管理費	964	333	1,297
	小計	59,552	9,507	69,059
固定資産	教育研究用機器備品支出	34,222	1,779	36,001
	図書支出	10,223	1,799	12,022
	車両支出	0	4,375	4,375
	建物支出	93,050	0	93,050
	構築物支出	6,108	0	6,108
	小計	143,603	7,953	151,556
	合計	544,460	166,884	711,344

■2005年度予算の概要

◆中長期財務計画に基づく予算編成をしています。

本学園では今後の事業計画に基づく中長期財務計画を策定しており、単年度予算はその計画の範囲内で編成しています。中長期財務計画では、2005年度は資金がさらに減少する見通しで、負担が最も大きな年度になります。また帰属収支差額もマイナスで、財務比率もバランスは取れませんが、その原因は2004年度決算の概要で述べたとおりです。しかしすべては中長期計画の想定の範囲内であり、その後の収支改善の見通しが立っていることから、少なくとも教育研究活動を削ぐことのないよう、これを上限として2005年度の予算編成を行いました。

◆大きな整備事業はこの5年間の58億円で一段落しました。

大学・高等学校合わせて58億円かけた施設・設備整備事業が2004年度までの5年間で一段落したことから、2005年度は特に大きな事業予算は計上していません。なお、高等学校では新規事業としてスクールバス2路線の運行経費735万円、サッカー場の整備費566万円を予算化しています。

◆2005年度も帰属収支は支出超過の見込みです。

予算書としては、帰属収入は前年度比8.8%増の27億5956万円を計上しました。基本金組入額は固定資産の取得が落ち着き、借入金の返済に伴う組入を主として、前年度比4億2363万円減の1億3678万円を計上しています。消費収入は、前年度比32.8%増の26億2277万円となります。これに対し消費支出は前年度比3.9%増の29億7902万円を計上しました。

◆帰属収支は2006年度に、消費収支は2007年度にプラスに転じます。

これにより帰属収支差額は2億1946万円の支出超過となる見込みです。しかしこれは中長期財務計画に比べ5354万円改善することになります。財務比率も依然として目標値より高く、学園全体の消費支出比率は108%ありますが、これも中長期財務計画に比べて1.9%改善することになります。今後の帰属収支差額は2006年度にはプラスに転じ、2007年度には消費収支差額もプラスに転じる見通しです。

※2004年度決算、2005年度予算ともに詳しくはホームページをご覧ください。
（http://www.seirei.ac.jp/gakuen/）